

第14回 ～未来このはな～二代目ラウンドテーブルを開催しました

開催日時：2018年5月10日(木) 19:00～20:30

開催場所：此花区民ホール 第1会議室

平成30年度2回目の開催となります「～未来このはな～二代目ラウンドテーブル」、このラウンドテーブルは、生活の中で「してみたいこと」をテーマに自由にアイデアや意見を出し合う場です。年齢や性別、肩書は一切関係なしに、此花をよりよくするために何か話そう。何か語ろう。という構想で行っています。

毎月第2木曜日に此花区民ホールにて定期開催する予定です。今回は、6月14日(木) 19:00より、区民ホール第1会議室にて開催予定です。参加は事前予約なしの自由参加です。お仕事の都合等での途中参加も歓迎いたします。お時間の許す方は、一度覗いてみてください。

今回は8名の皆様が参加されました。今回は「住吉神社地車会」の6月上海遠征を前に、その輝かしい足跡をご披露いただきました。また「愛染まつりの規模縮小」のニュースから、わが街の祭りはどうあるべきかを考える流れになりました。皆様に語っていただいたその中から内容の一部を抜粋・要約いたしますが、会場では話題に関連した(文書に起こしがたいような)うんちく、裏ネタ・小ネタが満載です。皆様も「肩の力を抜いて」ご参加いただければ幸いです。

○住吉神社地車会『上海遠征します。』

「6月の8～10日に上海に遠征します。前回トルコに行ったときにはメンバーがギリギリだったので写真を含め何の記録も残せませんでした。今回は映像などお土産にできると思います。旅費は自腹です。大阪市が一部助成してくれるとのことですが詳細は未定です。楽器の運搬については此花観光協会さんの交渉で飛行機会社が負担してくれることになりました。場所は上海の領事館になります。外務省から日中友好なんたら認定を受けての出演です。此花観光協会さんが上海にコネクションがあり、また大阪と上海の姉妹都市関係などもあっての実現とのことです。」

「此花区観光協会さんは仕事が速いです。以前にトルコに行った時も、初めて会長さんに会った際に『地車会は昔オーストラリアで演奏したことがある。また海外に行ってみよう』と振ったところ、『じゃあ2年後に行きましょう』と即答、段取りをつけてきっちり2年後にトルコ遠征を実現してくれました。」

「前回のトルコ遠征では、3か所で演奏させていただきました。2か所はきっちりとした公演施設ですが、3か所目のイスタンブールでは博物館の前でいきなりゲリラ的にイベントを始めるような演



出で、これはかなり受けが良かったです。広場に予告なく太鼓を持ち出して叩き始め、『何があんねん』と客が寄ってきたら大道芸が始まる、といった感じでした。」

「出演交渉について、先方にとってこちらが『旅費は自腹で、演奏の場を用意してくれれば参加します。ただ楽器の運搬だけは何とかありませんかね』のスタンスが受け入れやすいのだと思います。」

「オーストラリア遠征のときも楽器運搬はタダでした。現地クイーンズランド州の知事さんが『この人達はこれこれこういう理由で楽器を持って来るから飛行機載せてやって』みたいな書面を用意してくれて。」

「オーストラリアの祭りは数万人集める規模のものでしたが、出演者は皆ボランティアでした。オーストラリアらしく、様々な国の人が集まって母国の音楽を披露する形です。皆さん現地に住んでいる方々ばかりで、私達だけが日本から参加ということで『特別ゲスト』として扱ってくれました。」

「出演のきっかけは、その祭りの実行委員会の中に日本人の方もおられて、その方が地車会の人間の叔母さんと知り合いで、その縁で『来てくれるかな』と声掛けてくれて。」

「日程は結構厳しくて観光などする間もありませんでした。移動は飛行機 6 時間、車 6 時間程度。3 泊 4 日の行程で宿に落ち着いたのは 2 泊のみです。行先が『奥地』という訳ではないのですが、小さい飛行機だと太鼓が載せられないため車での移動となりました。」

「観光協会の会長さんは、まだまだ面白いことを考えているようです。最終的には、地車囃子に合わせてイルカを飛ばし、それをどうやって海外に持っていくかを狙っているそうです。会長さんの本職は『イルカ』ショーの企画ですから。」

「実際に 3、4 年前には、和歌山・みさき公園の『ナイト ZOO』でイルカショーに参加したことがあります。さすがに太鼓に合わせてイルカを調教することは出来ませんでしたので、向こうのイベントに流れる音楽に合わせてこちらが太鼓を叩くといったものでした。うちの若い子らはイルカに手の届くプールサイドで踊っていました。イルカも好奇心旺盛で『何やってんの?』と近くまで寄ってきていました。」

「オーストラリアもトルコも私達が遠征したところは日本人がいないところだったので、とても喜んでもらえました。ステージも一番いい時間帯を用意してもらえました。彼らが私達をどのような目で見ていたかは分かりませんが、翌日には色々と声を掛けられました。タクシーに乗った時も『昨日観たよ』みたいな感じです。」

「オーストラリアに行った時には、経験 1 年の子を連れて行きました。若い子にはいい体験になったと思います。上海にも中学 2 年生の子を連れていきます。旅費のこともあるので声を掛けづらい面もあるのですが、たまたま地車会の親御さんと観光協会の会長さんが大学の同級生で仲が良かったとのことで、話がうまく進みました。」

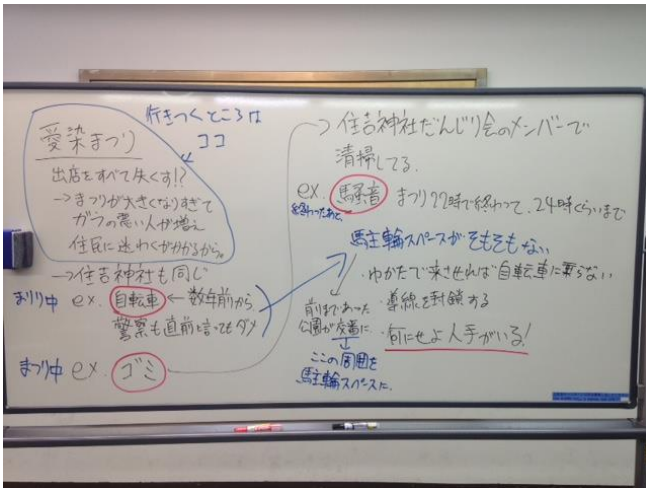
○その他、告知事項

「9月16日に昨年度に続いて『コノハナマルシェ』を開催する予定です。区民ホールと千鳥橋公園での実施を計画しております。モノづくりワークショップとそれに関連した物品の販売、加えて今年は飲食ブースも出したいと思っております。このイベントに『猫畳』も参加してもらえるとありがたいです。」

「昨年度は区民ホールで実施したのですが、『外から見えない』イベントではお客様を引き込みづらいところがありましたので、今回は駅のホームからも見える千鳥橋公園を利用したいと考えています。正連寺川公園もいいのですが、雨対策に区民ホールを併用するとスタッフが手薄になるため悩ましいところ です。実施詳細が固まりましたら、改めてご案内いたします。」

○本日のテーマは『愛染まつり、規模縮小するそうです。』

「新聞で『愛染まつりの規模縮小』のニュースを見ました。大阪の3大祭りの一つが200件近い出店を全部やめてしまうとのこと。宝恵かごや愛染娘もやらないそうです。理由は祭りが大きくなりすぎたとか、若いガラの悪い客ばかりが集まり過ぎて近隣に迷惑をかけるようになったからだそうです。自転車を住宅の前に放置する、ごみを散らかす、これらを祭りの関係者が対処するのですが追いつかなくなりました。とりあえず数年間やめてしまい、未来永劫という訳ではないですが、一度やめてしまっ てどういうやり方ができるのか考えたい、ということでした。」



「うちの小さい住吉神社でも他人事ではなくて、最近では祭りの人出が多くなり自転車が溢れるようになってきました。神社側でも人を出して誘導するのですがそもそも駐輪できる数に限りがあります。そのため近隣マンションの駐輪場に2重駐輪するような状況が見られました。年に1度の祭りのことで、住人の方も怒っているわけではないのですが、ちょっと目を離すと主催者側で手の付けられる状況でなくなってしまいます。以前に駐輪スペースとなっていたところに新しく交番が建ったので、尚更拍車がかかることとなりました。」

「ゴミの問題もあります。地車会では対策として、15年くらい前から夜10時に祭りが終わって打上げをして、12時頃から手分けをして掃除をするようにしています。また地車会には沢山の世代がいますので、ガラの悪い客と同世代の者もいます。結構応援はしてくれているので『悪い、ごみ持って帰ってくれ』という、ある程度片づけてくれたりしますので最近ましになっています。」

「ゴミと並んで騒音の問題があります。祭りは夜10時に終わるのですが、その後なかなか帰らない。電気も消して真っ暗にするのですが居残って騒いでいる。帰ってもらう、解散してもらうのがなかなか難しいです。」

「これらのことは対応の仕方が難しいです。愛染まつりのことをみると、うちもそうになってしまうのかなと思うところもあります。打つ手を間違えると失敗してしまうかもしれません。」

○皆様のアイデア、どう付き合っていきます？

「先日、夜の区民ホールのロビーで中学生か高校生くらいの 5 人組が、傘袋を散らかして騒いでいたことがあって強めに怒ったのですが、中々話を聞く様子がない。もしかしたら騒いでいる人間にさほど悪気はなかったのではないかと、公共のスペースで楽しく喋っていただけなのに何で怒られなきゃならないのか、という感覚なのではないかと感じました。」

「私は大人をナメてるのだと思います。相手の顔を見て、優しくな人なら話を聞かず好き勝手にし、怖そうな感じならショボンとする、そんな感じです。」

「相手がなぜそんな行動をとるのか、その原因の一端を取り除けば一定の抑止にはなると思います。」

「祭りが面白くてそのまま居りたいから残っているだけであって、祭りじゃないときは騒がない。祭りのときに集まって移動するのが邪魔くさいのでそのまま残っているだけ。祭りの 2 日間だけだからしょうがないとするのか、抑え込もうとするのが難しいところです。夜に掃除しながら『お前ら、早く帰れよ』と声掛けするだけでもかなりましになったと思います。」

「昔は『カミナリ親父』があちこちに居って、気に入らないことがあれば皆怒っていた、それが普通でした。子供も怒られた理由はわかっていた。最近は誰も注意することが無くなってきたので調子に乗っているのだと思います。ある程度抑えつけることも必要だと思います。」

「抑え込もうとすると巡回が必要です。でも、それで追いつくものなのかなという懸念もあるので、それ以外の方法はないのかなと。」

「自転車に関してはどうしようもないですね。『自転車に乗ってくるな』とするのは無理だと理解しています。」

「警備員をつけると効果があります。それでもちょっと目を離した隙に一気に数が増えますので、本当にびっくりします。だから巡回するよりも要所に立っているべきでしょう。人の目があると停めにくいものです。また、マンションの自転車置き場も要注意です。自転車が並んでいるからついでに、という感じでしょうか。1 台停められると後に続きますので大変です。」

「自転車問題の解決には駐輪場の確保が必要ですが、利用できる場所が本当にありません。少し離れた場所に学校、公園などありますが、そんな離れた場所を駐輪場にしてもそもそも利用してもらえないと思います。」



「きっちり管理をしようとする、揉め事になることがあります。若い人同士だと喧嘩になることもありますので配慮が必要です。比較的年配の者を担当につけた方が穏便に事を収められるようです。」

「やはり駐輪スペースの不足が問題の根本です。昔はそれほどでもなかったですが、交番が移転してきて場所がなくなったことの影響はあると思います。」

「北港通の車道 1 車線をつぶして駐輪場にしたらどうでしょう。商店街への動線からも最適なのですが難しいでしょうね。」

「祭りに来るのに『浴衣推奨』したらどうでしょうか。浴衣で来たら食券一枚プレゼントするとか。浴衣を着て自転車には乗りにくいでしょうから抑制になるかもしれません。昼間空いている舞台を利用して『浴衣ショー』なんかを計画するのも面白いと思います。」

「自転車問題のターゲットが中高生とするなら、学校に回覧を回して『困ってる、助けてくれ、みんなの知恵が必要だ』と呼びかけたらどうでしょう。『禁止だ』という反発を買いそうですが、『助けて』のノリで持っていけば『しょうがないか』と協力を得られるのではないのでしょうか。」

「解決には駐輪場を増やすか、自転車で来させないか、自転車の乗り入れ自体を禁止する方法もあるでしょうが、人手もお金も不足していますので実行は難しいと思います。」

「何をするにも人手がいりますので協力者を増やしていく必要があります。」

「北港通の向かい側の歩道、現在工事をしていますが道幅は広いのでここは利用できないのでしょうか。」

「交番の周りを駐輪スペースに出来るようになれば改善されると思います。相談しましょう。」

「駐輪場について回覧か何かで周知したらどうでしょうか。そもそも駐輪問題で困っていることを住民は認識していないと思います。」

「祭りに参加する人達に『愛染まつりは他人事でないよ』ということを伝えていけば考えるきっかけになると思います。アピールすることで中高生にすぐに浸透しなくても、祭りに参加している関係者の方、出店している団体さんに広まり課題を共有してもらえれば、皆で解決の糸口を見つけられるかもしれません。」

「愛染まつりの件は、祭りの世話役の方が解決策の見つからない課題に対して、住民の方々に向けたある意味『見せしめ』ではないかと思います。祭りが無くなって大騒ぎするなら、もっと考えてくれ、手伝ってくれということだと思います。」

「祭りの世話人の間でも自転車の問題は認識している方は少ないと思います。まず企画会議の中で問題意識を共有することが重要だと思います。」

以上です。

次回は、6月14日(木) 19:00より、此花区民ホール第1会議室にて開催予定です。
皆様のご参加をお待ちしております。